日曜日AM8:30～9:00
(ABC・テレビ朝日系)放送

第36話

「四級試験でドド?」(仮題)

ABC

制作 ASATSU-DK

東映

役職	担当
プロデューサー	株柳真司（ABC） 堀内孝（ASATSU-DK） 関弘美 蛭田成一
原作	東堂いづみ
連載	講談社「なかよし」 漫画　たかなし♡しずえ 「たのしい幼稚園」 「おともだち」他
製作担当	風間厚徳
シリーズディレクター	佐藤順一 五十嵐卓哉
シリーズ構成	山田隆司
キャラクターコンセプトデザイン	馬越嘉彦
美術デザイン	ゆきゆきえ 行信三
色彩設計	辻田邦夫
音楽	奥慶一

<オープニング>

おジャ魔女カーニバル!!

作詞：大森祥子
作曲：池　毅
編曲：坂本昌之
歌：MAHO堂
(バンダイ・ミュージック)

どっきりどっきりDON DON!! 不思議なチカラがわいたら どーしよ?(どーする?)
びっくりびっくりBIN BIN!! 何だかとってもすてきね いーでしょ!(いーよね!)

きっと毎日が日曜日　学校の中に遊園地
やな宿題はぜーんぶゴミ箱にすてちゃえ

教科書みても　書いてないけど
子猫にきいても　そっぽ向くけど
でもね　もしかしてほんとーに　できちゃうかもしれないよ!?

※大きな声で　ピリカピリララ
はしゃいで騒いで歌っちゃえ
パパ、ママ、せんせ、ガミガミおじさん
「うるさーい」なんてね　火山が大噴火

★お空にひびけ　ピリカピリララ
とんで走ってまわっちゃえ
テストで3点、笑顔は満点
ドキドキワクワクは年中無休

きんきらきんきらRIN RIN!! ながれ星をつかめたら どーしよ?(どーする?)
ばっちりばっちりBAN BAN!! 願い事がかなうよね いーでしょ!(いーよね!)

きっと毎日がたんじょう日　歯医者さんはずーっとお休み
いたい注射はやわらかいマシュマロにしちゃえ

そんなのムリさ　きみは笑うだけ
子犬にきいても　しっぽふるだけ
でもね　もしかしてほんとーに　できちゃうかもしれないよ!?

大きな声で　ピリカピリララ
ふざけて騒いで踊っちゃえ
パパ、ママ、せんせ、ガミガミおじさん
「ねなさーい」なんてね　かみなり落っこちた

お空にひびけ　ピリカピリララ
じゃれて走って遊んじゃえ
ジュースでカンパイ、おかわり100パイ
元気がてんこ盛り　年中無休

※Repeat
★Repeat
ずっとずっとね　年中無休

<エンディング>

きっと明日は

作詞：大森祥子
作曲：茅原万起
編曲：川崎真弘
歌：しゅうさえこ
（バンダイ・ミュージック）

明日は新しいわたしに出逢いたい
勇気をください　ほんの１グラムでも

帰り道ひとりきり　はなうたを歌えば
素直な気持ちになる　ちょっぴり泣きたくなる

今日はなぜか言えなかった
けんかのあとの「ごめんね」
風のように　さりげなくね
伝えたいな　明日は

まるで夕陽と同じ　追いかけても遠い
なのにどこへ逃げても　ついて来るね、夢は

今日はうまく解けなかった
５ページ目の答えも
影踏みして　飛び越えてく
小石になれ　いつかは

明日は新しいわたしに出逢えそうで
背伸びをしてみた　ほんの１ミリだけど

第36話（梗　概）

転校生・瀬川おんぷは、魔女ガエルになってしまったマジョルカの魔女見習いだった。しかも、魔女界でタブーとなっている『人の心を操る魔法』を平気で使ったりして……どれみ達はおんぷに話をしようとするが〝仕事で忙しいから〟とあっさり逃げられる。

一方どれみ達は、魔女界で四級の試験に参加。その内容は……自分の妖精とペアを組み、うさぎとかめ相手に障害物競争！　ドドとペアを組むだけでも大変などれみなのに、その上競争相手は、昔話と違い＝無茶苦茶俊足……どれみ達、ピンチ！

大きな壁、二人三脚、更には悪気はなくともしっかり邪魔をしているおんぷ！　＝次々と現れる障害を乗りこえたどれみ達だが、ゴール間際でうさぎとかめが逆転……最後の逆転を狙ったどれみは、ゴール目がけてドドを投げ飛ばす！

――どたん場の機転で、どれみ達は大逆転！　何とか四級の認定玉を手に入れるのだった。

登場キャラクター

役名	摘要	声の出演者
春風どれみ		千葉千恵巳
妹尾あいこ		松岡由貴
藤原○はづき		秋谷智子
マジョリカ		長沢直美
ララ		高村めぐみ
○		
ドド		徳光由香
ミミ		斉藤祐子
レレ		水樹洵
○		
瀬川おんぷ		

役名	出演者
モタ	川崎裕子
モタモタ	YOKO
ぽっぷ	石毛佐和
どれみの母	詩乃優花
うさぎ	
かめ	
試験官	
関先生	葛城七穂
○	
観衆	
その他	

1　どれみのイメージ

かめの着ぐるみを着たどれみが必死に走る。かめだから超スロー。

おんぷ「おっさきー」

どれみの横をうさぎの着ぐるみを着たおんぷが追いぬいていった。

どれみ「平気平気！　地道なかめは、うさぎが昼寝をしている隙に追いぬけるんだから」

余裕で笑っていると、背後にうさぎのおんぷが現れる。

おんぷ「でもさ、昼寝が嫌いなうさぎもいるんじゃないの？」

あうっとなるどれみ。

2　オープニング

3　回想

紫の見習い服のおんぷが魔法を使う。

おんぷ「プルルンプルンファミファミファー審査員の皆さんが私に投票してくれま

すよーに！」

4　サブタイトル

5　MAHO堂

どれみ達テーブルで粘土細工。空中にいるドド達は魔法粘土で作ったボールとグローブでキャッチボール。

どれみ「だけど驚いたよね。おんぷちゃんが魔女見習いだったなんて」

あいこ「しかも、あんな魔法使いよるなんて」

はづき「ちょっとショックかも……」

どれみがふえーっと溜息ついて、

どれみ「あーあ、こんなことだったら私も最終審査で使っとけば良かったよ、魔法」

突然マジョリカ、ララが現れて、

マジョリカ「ばっかも――ん！　そんな魔法使ったらどんな事が起こるかわかっとるのかぁ！」

どれみ「知らない」

こけるマジョリカ。
はづき「ねえマジョリカ、もし使ったら、どんな事が起こるの？」
マジョリカ起き上がって、
マジョリカ「それはもう恐ろしいことじゃ」
あいこ「それって前に言っとった人の怪我を治したりとか、死んだ人を生き返らせたりとかそういう魔法と同じってこと？」
ララ「そうよ、魔女界ではね。人の心を操る魔法も使ってはいけない事になってるのよ」
どれみが机から乗りだしマジョリカに、
どれみ「で？　具体的にどんな事がおこるの」
マジョリカ「……」
どれみ「ねえねえ、ねえってば」
マジョリカ「(小声)……知らん」
と吐き捨てるように言う。
どれみ・あいこ・はづき「(意地悪く) えー？」
マジョリカ「知らんといっとるじゃろうが！」
拍子抜けのどれみ達、

あいこ「なんや知らへんのか」
どれみ「真面目に聞いて損した」
マジョリカ「(憤慨) な、な、な……」
爆発寸前。
ララ「まあまあ」
とマジョリカをなだめる。
はづき「ねえ、もしかしたらおんぷちゃん、使っちゃいけない魔法だって知らないのかもしれないわ」
どれみ「何が起こるか判らないって言うけど、絶対おんぷちゃんには良くない事だよ」
あいこ「そやな、明日学校で教えてあげよ」
どれみ・はづき「うん」
するとマジョリカが怒って、
マジョリカ「お前達! 人の心配なんぞしてないで、自分の心配をするんじゃ! 明日の四級試験、もし落ちたら承知せんからな!」

6 美空小学校・全景

朝である。

7 教室

自分の席で待ち構えるどれみ達。
おんぷが教室に入ってくる。

どれみ「来た！」
三人立ち上がっておんぷの元へ行こうとするが、

生徒達「おんぷちゃーん！」
他の生徒がおんぷを取り囲む。

あいこ「……こりゃ駄目やな」

はづき「皆の前で魔法の話は出来ないし……」

× × ×

授業中。
あいこがおんぷに話しかけようとするが、

関先生「妹尾！　何してんだい」

どれみ達「え？」
おんぷ「ほら、私って忙しい人だから、それじゃあまたね」
帰ってしまった。
どれみ達「……」

8 夜空

月が笑っている。

9 春風家・キッチン

ぽっぷが忍び足で入ってくる。
辺りを見まわし椅子を棚の前に置く。
ぽっぷ「どれみなんかに頼った私が馬鹿だったんだ」
椅子の上に乗り棚からインスタントコーヒーを取り出す。
ぽっぷ「今日こそ魔女界に行くんだから、苦くても我慢して飲むんだぞ、ぽっぷ」
自分に言い聞かせていると、

母　「ぽっぷ」

母が入口に立っている。

ぽっぷ「ぎく！」

慌てて背後にコーヒーを隠すが、

母「こんな夜中に何してんのよ」

ぽっぷ「べ、別に、なんでもないよ」

しかし隠したコーヒーに気付かれる。

母「あら、ぽっぷったらコーヒーなんて、駄目よ、こんなの飲んだら眠れなくなっちゃうんだから」

ぽっぷ「(小声) 眠らないように飲むんだけど」

母「ほら、さっさと寝なさい」

ぽっぷ、小脇に抱えられて連れてかれる。

ぽっぷ「(泣) お願い見逃してー」

10

どれみの部屋

どれみ、タップを押して着替える。

決めポーズ。

すると箒に乗った見習い姿のあいことはづきが外から窓をノックする。

どれみ「はづきちゃんにあいちゃん」

どれみが窓を開けると中へ入って来る。

はづき「ぽっぷちゃんを起こしに来たの」

あいこ「どれみちゃん一人じゃ苦戦すると思ってな」

どれみ「有難う。助かったよ」

にこっと笑うはづきとあいこ。

11 MAHO堂

見習い姿のどれみ、あいこ、はづきの後ろ姿。

ララ「あら、ぽっぷちゃんは?」

どれみ「それが……」

マジョリカ「言わんでいい……おおよその見当はつくわい」

どれみ達、ぽっぷとの奮闘の痕がありあり。

× × ×

ララ「さ、行きましょう」
マジョリカ「良いか？　これに受かれば四級じゃ、しっかりやるんじゃぞ」
あいこ「まかせといて」
はづき「頑張ります」
どれみ「それじゃ魔女界へレッツゴー！」
　扉を開けて魔女界へ。

12

魔女界

　ちりとりに乗ったマジョリカを先頭に進むどれみ達、前方に屋台が見えてくる。
モ　タ「いらっしゃーい」
モタモタ「待ってたわよー」
　屋台の前で手を振る。

13

屋台・前

モタとモタモタと向かい合う一同。

マジョリカ「今日の試験はなんじゃ？」

モ　タ「えーとねー」

モタモタ「今日の試験はー……」

マジョリカ「ええい！　早く決めんか！」

モ　タ「決まってるわよお」

マジョリカ「な、なんと」

モタモタ「ちょっと待っててね」

モタとモタモタが魔法のステッキを取り出して振る。

×　　×　　×

どれみの部屋。

どれみのベッドで寝ているドドどれみが消える。

×　　×　　×

はづきの部屋。

レレはづきも消える。

×　　×　　×

あいこの部屋。

ミミあいこも消える。

×　　×　　×

屋台前に現れるドドどれみ、レレはづき、ミミあいこ。

レレ・ミミ「レレ（ミミ）？」

ド　ド「ZZZ……」

ドドどれみはまだ寝ていた。

はづき・あいこ「レレ（ミミ）！」

どれみ青ざめて、

どれみ「ドドレレミミ、これってまさか……」

モ　タ「今日の四級の試験は、お供の妖精と一緒にやってねー」

どれみ「（驚愕）エ――――！　そんなあ」

大ショック！

はづき「レレ、頑張ろうね」

レ　レ「レレ！」

あいこ「ミミ、頼んだで」

ミ　ミ「ミミ！」

和やかなはづき達。しかしどれみは泣いている。

どれみ「……よりによってドドと一緒に試験なんて、あー私って世界一不幸な美少女！」

奈落の底へ落ちて行く。

ドドはまだ寝ていた。

14 スタジアム

魔女界風スタジアム。

鈴なりの観客達。

モタとモタモタに連れられてコースに出てくるどれみ達。ドド達は妖精姿に戻りふらふらしている。

どれみ達の姿を見ると、スタンドの観客が大歓声。

あいこ「な、なんやこれ？」

モタモタ「お客さん」

どれみ達「？」

モ　タ「それじゃあ始めましょうか」

どれみ「始めるって何するの？」

モ　タ「うさぎとー」
モタモタ「かめとー」
モタ・モタモタ「障害物競走」
　　　モタ達の後ろに何時の間にかうさぎとかめの姿有り、柔軟をしている。
モ　タ「うさぎとかめに勝てば合格ー」
どれみ「え！　そんなんでいいの」
モタモタ「ただしー、競争するのは妖精でえ、あなた達はお手伝い」
はづき「お手伝い？　それじゃあ、魔法を使ってもいいんですか？」
モ　タ「箒を使うのとお、相手の邪魔をする魔法は駄目ー」
モタモタ「他の魔法ならＯＫ」
どれみ「やったあ！　もう合格したも同然だよ」
　　　笑顔のどれみだが、
あいこ「どれみちゃん、油断は禁物やで」
はづき「あいちゃんの言う通りだと思う」
どれみ「大丈夫大丈夫、昔話にあるじゃない。うさぎは昼寝で、かめはゆっくり、
　　魔女見習いの私達が負けるはずないって」
ド　ド「(同意) ドド、ドド！」

その会話を聞いているうさぎとかめ。

×　×　×

モタとモタモタが魔法スティックを振る。

スタート台や玩具の鼓笛隊が現れる。

×　×　×

スタートラインに立ったうさぎとかめそしてどれみ達。ドド達はそれぞれ主人の頭上に乗っている。

どれみ「なんだか大袈裟だね……」

はづき「こんなに沢山人がいると、私緊張するわ」

×　×　×

貴賓席でマジョリカ、ララ、モタモタがどれみ達を見ている。

ララ「皆、頑張って！」

×　×　×

スタート台がせりあがって、台の上のモタが銃を上空に構える。

するとゴール前に陣取った鼓笛隊がファンファーレを演奏する。

モタ「よおーい……」

×　×　×

緊張するどれみ達。

×　×　×

モ　タ「どーん」

引きがねを引いた。

×　×　×

スタート台の号砲と同時に物凄いスピードでうさぎとかめが走っていってしまう。

凄いスピードで走るうさぎとかめ。

×　×　×

貴賓席、怒るマジョリカがモタモタに、

マジョリカ「なんなんじゃ、あれは！」

モタモタ「あらあ？　言わなかったっけぇ、魔女界では有名なー、勤勉なうさぎと素早いかめぇ」

ラ　ラ「ずるいわ！　ずるいわ！」

×　×　×

どれみ達、目が点。

どれみ「何……あれ……」

あいこ「いんちきや……」

× ×（C・M）× ×

15 スタンド前

うさぎとかめはあっと言う間に見えなくなった。

呆然とするあいこ、どれみに、

はづき「どれみちゃんあいちゃん、私達も急ぎましょ」

あいこ「そうやった」

どれみ「ドド、行くよ」

ド　ド「ドド」

一同、我に帰ってようやく走り出す。

16 第一障害

前方に巨大な壁が見えてくる。うさぎとかめは既によじ登り始めている。

どれみ「何あれ、ドド達は越えられるけど、私達はどうするのさ」

あいこ「あのな、どれみちゃん。こういう時こそ魔法やろ」

どれみ「あ、そっか」

はづき「私がやるわ」

ポロンを取りだし、

はづき「パイパイポンポイ、プワプワプー壁に穴よ開け！」

ちょっと小さめの穴が開く。

どれみ「やった！」

はづき笑顔。

× × ×

ドド達、はづき、あいこが穴を抜ける。

どれみも続こうとするが、頭の団子が引っ掛かる。

どれみ「ん？」

× × ×

穴から首の抜けないどれみを引っ張るあいことはづき。

どれみ「(泣き) はづきちゃん。もうちょっと大きい穴、開けられなかったの？」
はづき「ごめんなさい……」

17 コース上

どれみ達が走ってくる。ドド達は飛んでくる。
試験官魔女が待ちうけている。

試験官「おひさー」
はづき「あなたは……」
どれみ「八級試験の時のお姉さん」
あいこ「悠長に話してる場合やない。お姉ちゃん、私達何したらええん？」
試験官「ああん、もっと喋らせてえ」
どれみ「駄目」
試験官「もー」
あいこ「(ドス) はようしいや」
試験官、びびって、
試験官「こ、ここでは二人三脚をやってもらいまーす」

紐を三本取出した。

どれみ「二人三脚って誰と？」

試験官「勿論お供の妖精とよ」

× × ×

はづき、あいこは既に変身したレレはづき、ミミあいこと肩を組んで足を上げ下げしている。

あいこがどれみに向き、

あいこ「どれみちゃん、早くしいや」

どれみ「う、うん」

どれみとドドどれみはまだ紐を足に結ぶ途中。

どれみ「ほら、足もっとこっち」

ドド「（ムカ）ドド！　ドド！」

どれみ「え？　不器用なのを人のせいにするな」

ドド「（肯定）ドドドド」

どれみ「なによそれ！　どういう意味？」

ドド「（ムキ）ドドド！」

睨み合う。

あいこの声「先行くで」
どれみ「あ、ちょっと待ってよ」

×　　×　　×

かめ・うさぎ「かめっかめ（うさっうさっ）」
　かめとうさぎが二人三脚している。かなり離れた後方には見事に二人三脚をこなすはづきとあいこ。
はづき・レレ「右、左、右、左（レッレレ、レッレレ）」
あいこ・ミミ「おいっちに、さんし（ミッミミ、ミッミミ）」
　それに比べてどれみペア。何故転ばないのか不思議なほど息が合ってない。
ドド「（喜）ドッドド、ドッドド」
どれみ「もお！　勝手に進むな！」
　どれみがこける。
どれみ「いたっ！」
ドド「（笑）ドドド……ドー！」
　しかしドドも一緒に転んだ。

18 スタンド

巨大な水晶玉にどれみ達の姿が映し出されている。
大爆笑の観客、呆然とするマジョリカ。
マジョリカ「もう駄目じゃ……わしゃ一生この姿のまんまじゃ」
落ちこむ。
ララ「まだ始まったばっかりなんだから、しっかり応援しましょう」

19 コース上

ドド達は妖精姿。
へっちゃらなはづき、あいことは対照的に傷だらけでぜえぜえ言ってるどれみ。
その時はづきが、
はづき「あ！」
上空の箒に乗ったおんぷに気付く。
おんぷ「はあーい」

どれみ・あいこ・はづき「おんぷちゃん！」

おんぷ、地上へ着地。

あいこ「こんなところで何してんの？」
おんぷ「マジョルカに言われてあなた達の試験を邪魔しに来たの」
どれみ達「(呆然) え？」
おんぷ「でもその必要も無いみたいね」
どれみ「なんで？」
おんぷ「だって、こんな調子じゃほっといても落ちるでしょ」

どれみ達ショックで石化。

どれみ「な、な、な……」

憤慨するが、お構いなしのおんぷが、ドド達を見て、

ミ　ミ「ミミ？」
おんぷ「あら、可愛い妖精、どれみちゃん達のお供ね」
はづき「そうよ、おんぷちゃんにもいるんでしょ？」
おんぷ「ええ、私のお供はロロっていうの」
あいこ「そういえばおんぷちゃん。学校で妖精の水晶玉持ってへんよね？」
おんぷ「私達、ベタベタするの嫌いだから、お互い好きにやってるのよ、多分今頃

家でテレビでも見てるんじゃないかしら？」
あいこ、どれみはフンフンとおんぷの話を聞いている。
しかし、はづきがはっとして、
はづき「そんなことよりおんぷちゃん！　あなたの魔法の使い方、とっても危ないのよ！」
そうでしたとどれみ、
どれみ「怪我や病気を治したりする魔法と同じで、人の心を魔法で思い通りにすれば全部自分にはねかえるってマジョリカが言ってたんだよ」
あいこ「もうあんな魔法使ったらあかん」
しかしおんぷは余裕の笑み。
おんぷ「ふふ……」
どれみ達「(唖然)……」
はづき「何がおかしいの？」
あいこ「人が折角心配してやっとるのに！」
おんぷ「そんなこと知ってるわ」
どれみ達「え？」
おんぷ「でもね、私にはマジョルカから貰ったお守りがあるから平気よ」

と腕につけた黒い宝石を中心に装飾されているブレスレットを見せる。

おんぷ「このブレスレットには災いをはね返す力があるの。だからどんな魔法を使っても私は大丈夫なのよ」

はづき「そういう問題じゃ……」

とまで言うと、おんぷが言葉を遮って、

おんぷ「それよりいいの？　このままずっと話し込んでて？　これ以上ここでぼっとしてたら、本当に試験落ちちゃうわよ」

どれみ達「アーーー！」

おんぷ「それじゃ、私は魔女のブティックで買物でもしてくるわ。試験頑張ってね」

箒に乗って飛んでいった。

あいこ「なんや！　しっかり人の試験の邪魔しとるやないか！」

20 スタンド

水晶にはうさぎとかめとどれみ達の差が映っている。かなりの差が開いていた。

マジョリカ「うーん」

と卒倒。
気絶しているマジョリカを揺するララ。
ララ「マジョリカ、マジョリカったら」

21 コース上

必死に走るどれみ達、必死に飛ぶドド達。
どれみ「ぜえ、ぜえ……このまま落第しちゃうのかな」
あいこ「どれみちゃん、諦めたらあかん！」
はづき「そうよ、障害物競走なんだから、まだまだ逆転出来るわ」
ドド・レレ・ミミ「ドド（レレ）（ミミ）！」
どれみ「そうだね。そうだよね。よおし、皆頑張ろう！」
一同「おー！」

22 最終障害

走る一同。すると前方に……

どれみ「あー！」
はづき「うさぎとかめが寝てるわ！」
　　うさぎとかめがベッドに寝ていた。
どれみ「ほら！　私の言った通りだよ、うさぎは昼寝をするもんなんだよ」
あいこ「かめも寝てるけどな」
はづき「チャンスよ！　今のうちに行きましょ」
あいこ・どれみ「うん」
　　行こうとするが、
試験官「駄目よー」
　　煙と共に現れた。
あいこ「またかいな」
はづき「今度はなんですか？」
試験官「最後の試験は眠ることよ」
どれみ達「？」

×　　　×　　　×

　　巨大ベッドに川の字で寝ているどれみ達、ドド達一同。
あいこ「こんなとこ寝かせてどないすんの」

ベッドの横の試験官が笑顔で答える。

試験官「夢の中のお花畑にいるぅ、とっても珍しい蝶々を捕まえて来て、とっても珍しい蝶々だから捕まえるのはすっごい大変よ」

どれみ「あーあ、冗談じゃないよ、いきなり寝ろって言われても寝れる訳……グガー」

寝た。

あいこ「はっやー！」

はづきははづきで、

はづき「私、枕が替わると寝られない……」

あいこ「え？　はづきちゃんも、実はわたしもなんよ」

はづき「本当？」

あいこ「でもこれも試験やから、頑張って寝よ」

はづき「うん」

×　　×　　×

爆睡あいこ。

はづき「あいちゃんの嘘吐き……」

はづき以外全員爆睡。

はづき「（泣き）どうしよう……やっぱり眠れないわ」

すると、あいこが旨い具合に寝返り。
カーンと拳がはづきに直撃、はづきは眠った（?）。

23 夢の中

煙と共にはづき登場。どれみ達が待ちくたびれてる。
はづき「いったーい……」
頭を押さえる。
レ　レ「レレ、レレ」
はづき「あ、みんな」
どれみ「はづきちゃん遅ーい」
あいこ「どれみちゃんが早すぎるんや」

24 夢の中・花畑

どれみ達がやってくるとうさぎとかめが蝶々を追っている。
呆然とするどれみ達。

どれみ「珍しい蝶々って、あれ？」
あいこ「いっぱいいるやん」
沢山の蝶々が飛んでいた。

×　×　×

どれみ「待て――！」
魔法で出した捕虫網を振り回し蝶々を追うがぎりぎりで捕まらない。あいこもはづきも捕まえられないでいる。
勿論ドド達も追いかけている。
あいこ「ああもう苛々するわ！」
どれみ「こうなったら私が魔法で……」
ポロンを出そうとすると、
ドドの声「ドド、ドド！」
どれみ達、ん？　と声の方に向く。

×　×　×

蝶々が花に止まっている。突然消えていたレレが姿を現し蝶々を捕獲。
レ　レ「(喜び) レレ！」

×　×　×

はづき「(喜) レレ！」
どれみ「そっか、その手があったか」

×　　×　　×

ミミが現れ蝶々をゲット。

×　　×　　×

半分消えたドドがお団子を見せたまま蝶々に近づく。驚く蝶々を有無を言わさず捕まえた。
どれみ「ま、いいけどね……」
呆れるどれみ。

25　最終障害

はづきが目を覚ますと蝶が三匹空へ飛んで行くのが見えた。
試験官の前のドド、レレ、ミミ。
試験官「はいOK。行っていいわよ」
がばっと起き上がるはづき、横ではあいこが目をこすっている。
はづき「急ぎましょ！　あいちゃん、どれみ……ちゃん？」

よだれを垂れ流しながら爆睡のどれみ。

あいこ「こらー！　起きいー！」

どれみの胸倉を掴んで揺すった。

うさぎとかめはまだ寝ていた。それを見たあいこ、

あいこ「よっしゃ、これで一歩リードや！」

26　スタジアム

どれみ達が走って入ってくる。

スタンドは大歓声。

後方から土煙、うさぎが寝ているかめを背負って猛追。

27　スタンド

のびてるマジョリカを起こすララ。

ララ「マジョリカ！　マジョリカ！」

マジョリカ「うーん……」

ラ　ラ「どれみ達が先頭よ！」
マジョリカ「な、なぬうう！」
跳ね起きる。

28

最後の直線

必死に走るどれみ達、しかしうさぎとかめに抜かれてしまった。

どれみ「ああ！　やっぱりうさぎもかめも速過ぎるよ！」

×　×　×

モタモタ「抜かれた！」
ラ　ラ「頑張ってぇ！」
凄い形相のマジョリカが伸縮しながら叫ぶ。
マジョリカ「行けええ！　追いぬけえ！　金返せー」
ラ　ラ「（きょとん）え？」

×　×　×

少しずつ差が開いて行く。
必死に走るどれみ達。

ドド「（疲労）ドド……ド……」

疲れて少しスピードが落ちてくる。

どれみ「こら、ドド疲れてる場合じゃないでしょ！　もうちょっとなんだから」

ドド「ドードー……」

どれみの頭に着地した。

どれみ「もおーこの根性無し！（M）もう諦めるしかないの……」

しかし、その時どれみが閃いた。

どれみ「は！　そうだ」

頭のドドをむんずと掴んで、

ドド「ドド!?」

どれみ「ドド！　行ってこーい！」

振りかぶってドドを投げる。

ドド「ドド――……」

飛んで行く。

それを見たレレとミミ。

レレ・ミミ「レレ！　レレ！（ミミミミ！）」

はづきとあいこに訴える。

あいこ「え？　あたし達も投げてくれ」
はづき「レレ……」
レ　レ「（急かす）レレレ！」
あいこ「わかった。ほな行くで」
　　あいこがミミをはづきはレレを掴んだ。
はづき「えーい！」
　　投げた。
レ　レ「レレ――！」
あいこ「うおりゃあああああ！」
　　投げた。
ミ　ミ「ミミ――……」
　　たちまちドド、レレ、ミミがうさぎとかめに迫る。大歓声。
　　×　　×　　×
　　凄い顔のマジョリカ、ララ。
　　×　　×　　×
　　緊張感の無いモタ、モタモタ。
　　×　　×　　×

倒れこんだどれみ、足を止めたあいこ、はづきがゴールの瞬間を見守る。

29 ゴール前

無音。
ストップモーションでドド達とうさぎ、かめがゴールテープへなだれ込む。
きわどいがきっちりとうさぎ、かめを差し切っていた。

×　×　×

観　衆「うおおおおおおおお！」
地鳴りのような歓声。

×　×　×

どれみ「勝ったの？　負けたの？」

30 掲示板

電光掲示板に着順が表示される。

『1ミミ、2レレ、3ドド、4うさぎ、5かめ』

31

ゴール地点

大喜びのどれみ達がドド達と喜びを分かち合う。

どれみ達「やったね！」

ドド・レレ・ミミ「ドド（レレ）（ミミ）！」

32

スタンド・ウィナーズサークル

どれみ達、お立ち台の上。

ドド達、主人の頭の上。

モ　タ「全員合格ー」

モタモタ「四級よー」

モ　タ「はい、認定玉」

玉をそれぞれに渡した。

観　客「うおおおおおお！」

拍手喝采。

×　　×　　×

大量の買物袋を抱えたおんぷが上空からどれみ達を見下ろしている。

おんぷ「あら、どれみちゃん達、合格したんだ……」

うふふと笑って帰っていった。

33　MAHO堂

どれみ、あいこ、はづき、マジョリカにララがニコニコしている。

ドド達は空中に浮遊。ララがドド達に、

ララ「それにしてもあなた達、今日はよく頑張ったわね」

レレ・ミミ「レレレレ！（ミミ）」

ドドがレレ、ミミを押し退けて、

ドド「ドドドド！」

マジョリカ「なに？　ほとんどがドドの活躍のお陰じゃと」

どれみ「よく言うよ、ドドは活躍してたって言うより、足引っ張ってたって言うほうが当たってるよ」

馬鹿にしたような表情でドドを見る。
ドド「（抗議）ドドドド」
どれみ「何よ」
ドド「ドドド！」
喧嘩が始まった。
苦笑いで二人を見守るあいこ達。

34 ぽっぷの部屋

凄い格好で寝ているぽっぷが、
ぽっぷ「今日こそ魔女界に行くんだから……ムニャ」
寝返りうって――

つづく